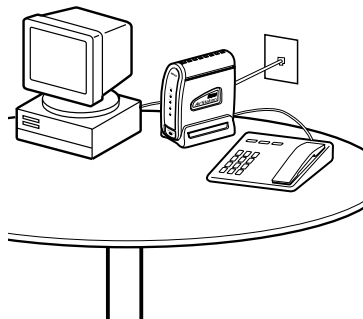
3

AirStation を設置します

AirStation の設置場所と、各機器の接続方法を説明します。

市販の単 3 アルカリ乾電池を 6 本用意しておいてください。

作業が終了したら、同梱されている「らくらく！セットアップシート」にチェックを付けてください。

乾電池を入れます

停電のときのために、市販の乾電池を AirStation に入れておいてください。

単 3 アルカリ乾電池を 6 本使用します。
AirStation に乾電池を入れておくと、バックアップ機能により、停電のときでも TEL ポートに接続した電話機などが使えます。

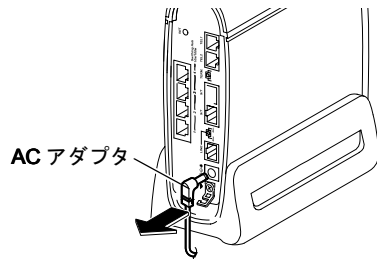
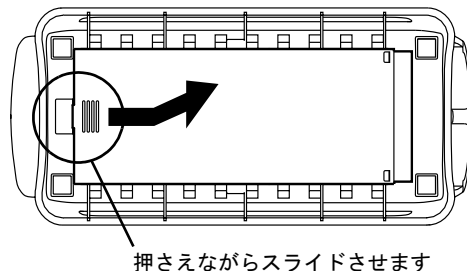
⚠ 停電のときに使えるのは、電話と FAX のみです。インターネットへの接続や、無線 LAN / 有線 LAN の使用はできませんので、ご注意ください。

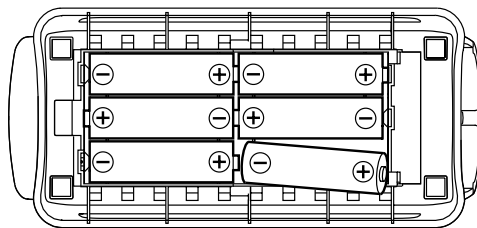
- 停電のときは、自動的にバックアップ機能が作動します。
- バックアップ時間の目安は以下の通りです。ただし、ご使用の環境によってバックアップ時間が異なります。
  以下は、新品のアルカリ乾電池を入れて、電話か FAX を 1 台接続した場合です。
  通話：約 2 時間
  待ち受け：約 3 時間
- 停電中は、内線通話や内線転送もできます。電話の使い方については、本製品に付属の CD-ROM に収録されているオンラインガイドをご覧ください。
- 停電が発生しなかった場合も、1 年に 1 回程度、乾電池を新しいものに交換することをお勧めします。
- 交換する電池は、6 本とも同じ種類の新しいものをお使いください。

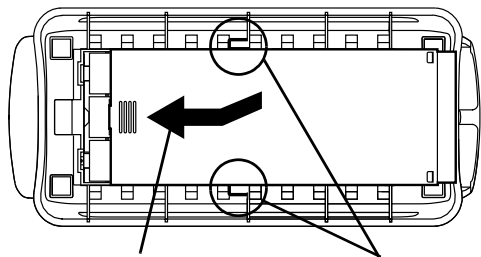
乾電池は以下の手順で入れてください。

1. 単 3 アルカリ乾電池を 6 本ご用意ください。

乾電池は同梱されていません。別途ご用意ください。

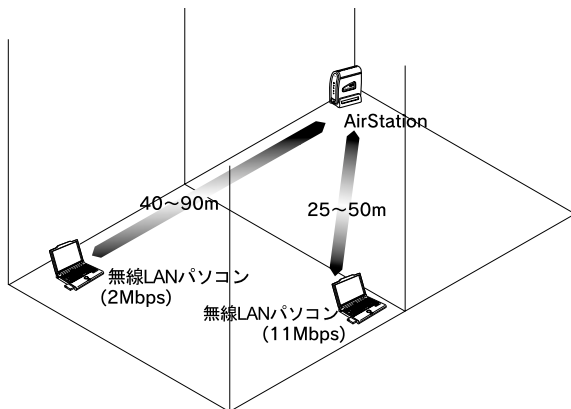
2. AirStation に AC アダプタが接続されている場合は、AC アダプタを抜きます。

3. AirStation 底面の乾電池ケースを開けます。

4. 乾電池を入れます。

プラス (+)、マイナス (-) の向きに注意して、正しくセットします。

5. 乾電池ケースを閉めます。

両脇のツメに引っ掛けて、ふたをスライドさせて閉めます。

AirStation を設置します

AirStation を設置します。以下をご覧になり、お使いの環境に合った場所に設置してください。

通信距離と設置場所について

最長で屋内 115m･屋外 550m(見通し) まで通信できます。
通常の通信距離は、以下の図の通りです。
通信距離は環境により影響されます。

	11Mbps 通信時	2Mbps 通信時
障害物の少ない屋内	50m（見通し）	90m（見通し）
障害物の多い屋内	25m（見通し）	40m（見通し）
屋外	160m（見通し）	400m（見通し）

- スチール机やスチール棚など金属製の物の近くや、電子レンジ、無線プリンタバッファの近くへは置かないでください。
  これらのものは電波の障害になります。
- 遮断物の材質によっては、通信距離が短くなったり遅くなったりすることがあります。また、通信ができなくなることもあります。

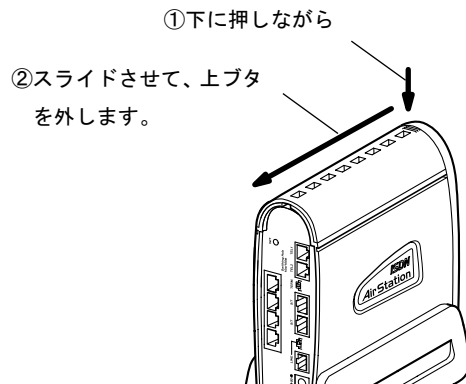
- はじめて AirStation を設定する場合、設定に使うパソコンは、AirStation の近くに置いてください。設定後は、設置場所を移動できます。
- AirStation を移動する場合、AirStation の電源をオフにしても、設定内容は保持されます。

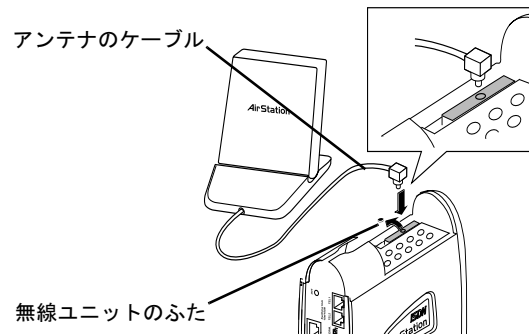
外部アンテナの設置

AirStation を設置して通信したときに、電波が届きにくい場合は、弊社製の外部アンテナ、WLE-DA（別売）等を取り付けてください。

外部アンテナは、AirStation の上ブタを取り外して取り付けます。以下の手順をご覧ください。

1. 上ブタを外します。

上ブタの前面を下に押しながら、背面方向にスライドさせると外れます。

2. 外部アンテナを取り付けます。

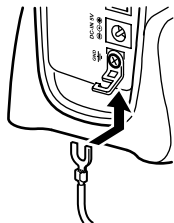
AirStation 内部にある、無線ユニットのふたを外して、アンテナのケーブルを接続します。

詳しくは、弊社製外部アンテナのマニュアルをご覧ください。

AirStation と各機器を接続します

AirStation と各機器を接続します。
記載順に、各機器を接続してください。

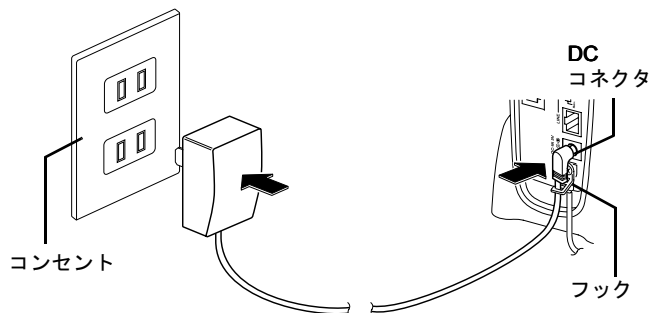
ISDN 機器を接続しない場合、AirStation の TERM スイッチは ON のままにしておいてください。

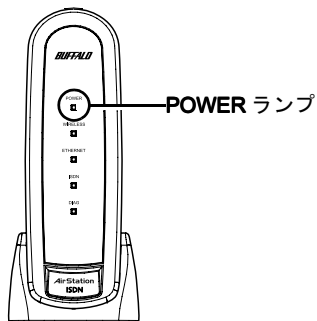
アース線

市販のアース線を、AirStation のアース端子に取り付けます。

AC アダプタ

必ず、本製品に同梱されている AC アダプタをお使いください。

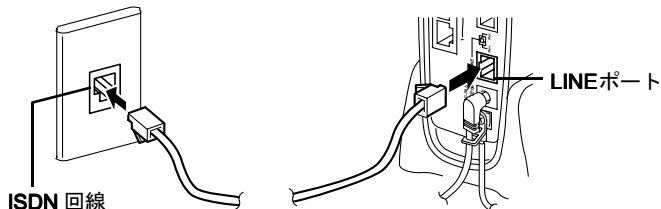
1. 本製品に付属の AC アダプタを、AirStation の DC コネクタに差し込みます。

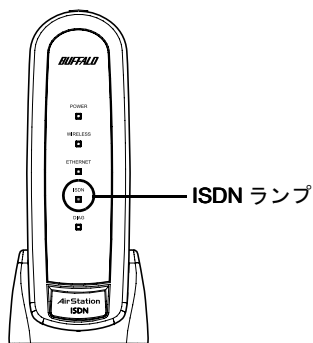
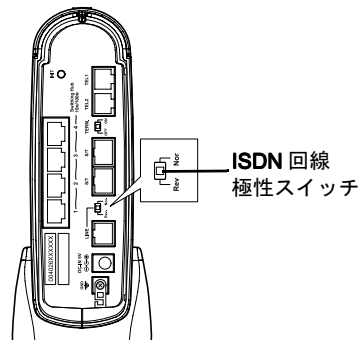
AC アダプタのコードは、フックに掛けてください。
AC アダプタのもう一方は、コンセントに差し込みます。

2. AirStation のランプを見て、AC アダプタが正しく接続されていることを確認します。

POWER ランプが緑色で点灯していることを確認します。
DIAG ランプが消灯していることを確認します。
ISDN ランプは、赤色に点滅していても問題ありません。ISDN 回線ケーブルを AirStation の LINE ポートに接続すると、消灯します。

ISDN 回線ケーブル

> ⚠ 本製品で使用できるのは、ISDN 回線（INS ネット 64 回線）のみです。OCN エコノミーや専用線では使用できません。

1. 本製品に付属の ISDN 回線ケーブルを、AirStation の LINE ポートに接続します。

必ず、本製品に付属の ISDN 回線ケーブルをお使いください。
ISDN 回線ケーブルのもう一方は、ISDN 回線に接続します。

2. AirStation の ISDN ランプを見て、ISDN 回線との接続を確認します。

消灯している場合、正常に接続されています。
赤色で点滅している場合、接続に誤りがあります。赤色で点滅している場合のみ、手順 **3** へ進みます。

3. ISDN 回線極性スイッチを切り替えてみてください。

電話機、FAX

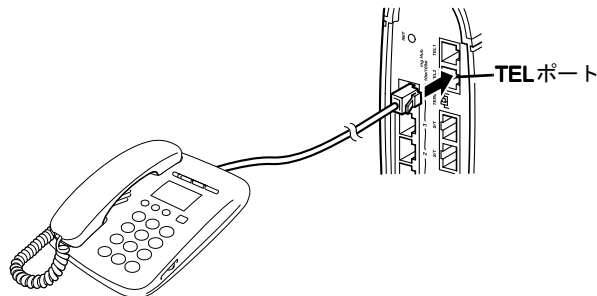
AirStation と電話機および FAX を接続する場合にお読みください。

電話機、FAX の接続

以下の機器が接続できます。

- アナログ回線に接続するプッシュ式（トーン式）電話機（ダイヤル式電話機は接続できません）
- FAX（G3）
- モデム

⚠ 以下の機器は動作保証外です。AirStation には接続しないでください。接続すると、電気特性が異なるため、AirStation が故障する場合があります。
ホームテレホン／キーテレホン／家庭用キーテレホン／ビジネスホン／ボタン電話

電話機および FAX を、TEL1 ポートまたは TEL2 ポートに接続します。

電話機の接続確認

電話機を接続した場合は、実際に電話をかけてみて、電話機が使用できることを確認します。
時報ダイヤルを例に、説明します。

1. TEL ポートに接続した電話機の受話器を上げます。

受話器から「ツー」という音がすることを確認します。

2. プッシュボタンで［1］［1］［7］と押します。

プッシュボタンを押すときに、「ピポパ」という音がすることを確認します。

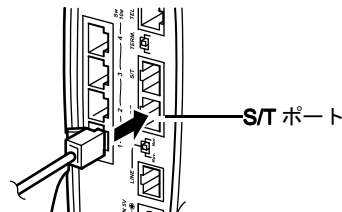
時報のアナウンスが聞こえたら、確認は終了です。

電話がつながらない場合は以下のページをご覧ください。
「TEL ポートに接続した電話機で電話がつながらない」205 ページ

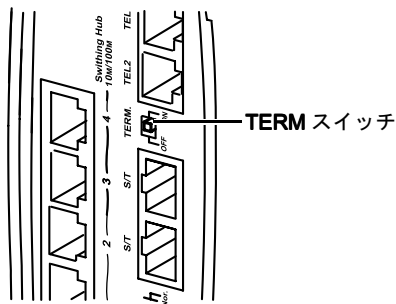
その他の ISDN 機器

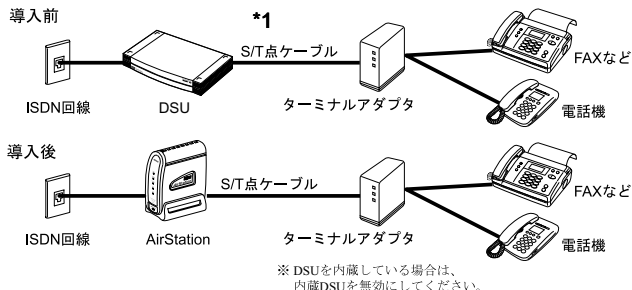
AirStation と、電話機や FAX 以外の ISDN 機器を接続する場合にのみ、お読みください。

1. 電話や FAX 以外の ISDN 機器は、S/T ポートに接続します。

- ISDN 機器を接続するケーブルの長さは、合計 100m まで使用できます。
- ISDN 機器は、カスケード接続で合計 7 台まで接続できます。

2. TERM スイッチを設定します。

- 終端抵抗のない ISDN 機器を 1 台接続した場合（ケーブルの長さ 10m 以内) は、ON にします。

- 終端抵抗のある ISDN 機器を 2 台〜 7 台接続した場合は、OFF にします。
  このとき、AirStation から一番離れたところにある（一番長いケーブルを使っている）ISDN 機器の終端抵抗を ON に設定します。

すでに ISDN 機器をお使いの場合

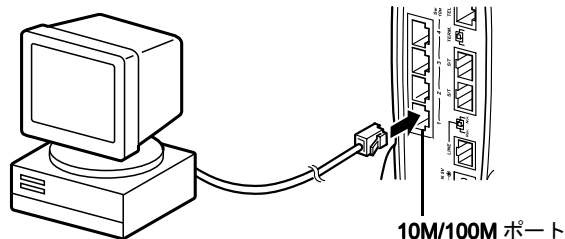
AirStation には、DSU 機能が内蔵されています。
すでに ISDN 機器をお使いの場合、お使いの DSU は不要になります。
以下のように、DSU の代わりに本製品を接続してください。

*1. S/T 点ケーブル
DSU と ISDN 機器を接続するためのケーブル。

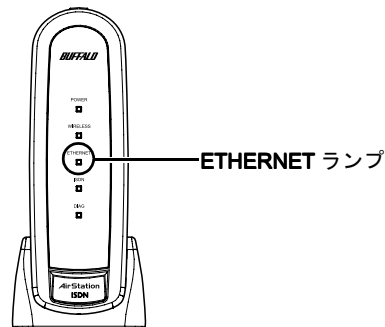
パソコン（ケーブル接続）

AirStation とパソコンをケーブルで接続する場合にのみ、お読みください。
パソコンとの接続に使うケーブルには、以下の制限があります。

100BASE-TX	カテゴリ[*a] 5 対応のストレートケーブル 最長 100m まで
10BASE-T	カテゴリ 3 以上対応のストレートケーブル 最長 100m まで

*a. ケーブルの品質を表す。カテゴリ 3 よりもカテゴリ 5 の方が高速で伝送できる。

1. パソコンの LAN ボードに接続した LAN ケーブルのもう一方を、AirStation の 10M/100M ポートに接続します。

2. AirStation の ETHERNET ランプを見て、パソコンとの接続を確認します。

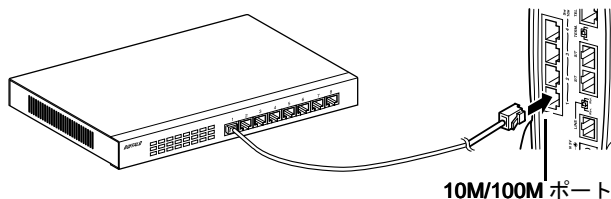
緑色で点灯している場合、正常に接続されています。

ハブ（ケーブル接続）

AirStation とハブ*1 をケーブルで接続する場合にお読みください。

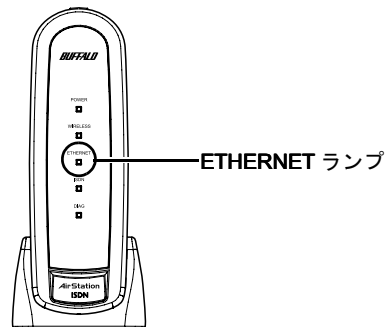
接続には、いくつかの制限があります。接続の前に、以下のページをご覧ください。

「接続時の注意」63 ページ
「使用できるケーブル」64 ページ

ケーブルの接続

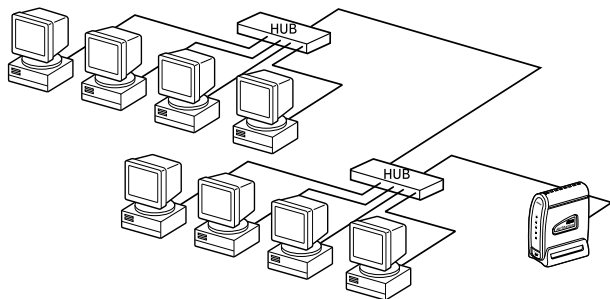
1. ハブに接続した LAN ケーブルのもう一方を、AirStation の 10M/100M ポートに接続します。

*1. 集線装置ともいう。ハブを中心にして複数の機器を接続し、ネットワークを構築する。

2. AirStation の ETHERNET ランプを見て、ハブとの接続を確認します。

緑色で点灯している場合、正常に接続されています。

接続時の注意

AirStation は、10M/100M に対応した 4 ポートスイッチングハブを内蔵しているため、インターネットの共用やファイルの共有など、LAN の機能が使えます。
なお、AirStation にはカスケードポートはありません。

- ケーブル接続のパソコンが 4 台以内の場合は、パソコンを AirStation に直接接続します。
- ケーブル接続のパソコンが 5 台以上の場合は、市販のハブを AirStation に接続して、パソコンをハブに接続します。

カスケード接続の例

- AirStation にリピータハブ*1 やデュアルスピードハブ*2 を接続する場合は、規格上、次の表のような制限があります。
  これらの制限を超えて接続すると、ネットワークが正しくつながらないことがあります。

	100BASE-TX	10BASE-T
カスケード接続*a の段数	2 段まで	4 段まで
カスケード接続時のケーブルの総延長距離	205m 以内	500m 以内

*a.ハブ同士をケーブルで接続すること。

- スイッチングハブ*3 を使うと、上記の制限を超えたハブの追加や距離の延長ができます。
  たとえば、10BASE-T のリピータハブで 4 段のカスケード接続をしている場合、スイッチングハブを使うと、リピータハブをさらに 4 段カスケードできます。

*1. 一般的なタイプのハブ。
*2. 2 種類の転送速度（10Mbps と 100Mbps など）に対応したハブ。
*3. スイッチング機能が追加されたハブ。通信に必要なポート同士が 1 対 1 でデータのやり取りを行うため、ネットワークが効率よく使用できる。

使用できるケーブル

ハブとの接続に使うケーブルには、以下の制限がありま
す。

100BASE-TX	カテゴリ*a 5 対応のクロスケーブル 最長 100m まで
10BASE-T	カテゴリ 3 以上対応のクロスケーブル 最長 100m まで

*a. ケーブルの品質を表す。カテゴリ 3 よりもカテゴリ 5 の方が高速で伝送できる。

ハブ側でカスケードポートに接続する場合は、ストレートケーブルが使えます。
カスケードポートの有無は、お使いのハブのマニュアルで確認してください。

電話機を設定します

AirStation の TEL ポートに電話機を接続した場合は、電話機の各機能を使えるように設定します。
ここでは、以下の機能の設定方法を説明します。

- ダイヤルインサービス
- i・ナンバーサービス
- 発信電話番号表示サービス（INS ナンバー・ディスプレイ）
- 発信者番号通知サービス

ダイヤルインサービス

TEL1 ポートと TEL2 ポートに 2 台の電話機を接続すると、1 台には契約者回線番号を、もう 1 台にはダイヤルイン番号を設定できます。

この機能を使うためには、NTT のダイヤルインサービスから、［グローバル着信］の契約をしておくことが必要です。

TEL1 ポートの電話機に契約者回線番号を、TEL2 ポートの電話機にダイヤルイン番号を設定する場合を例に、説明します。

手順	ダイヤル操作	受話器からの音
1	TEL1 または TEL2 ポートの電話機の受話器をあげます。	ツー
2	＊ ＊ 1 2 8	プッ、プッ、プッ、プー
3	0 0 ＊ 1 0 ＊ ＊	プッ、プッ、プッ
4	受話器を置きます。	-
5	TEL1 ポートの電話機の受話器をあげます。 （TEL1 ポートの設定開始）	ツー
6	＊ ＊ 1 2 8	プッ、プッ、プッ、プー
7	1 0 ＊ 契約者回線番号をダイヤル ＊ ＊	プッ、プッ、プッ
8	# ＊ #	プッ、プッ、プッ

手順	ダイヤル操作	受話器からの音
9	受話器を置きます。 （TEL1 ポートの設定終了）	-
10	TEL2 ポートの電話機の受話器をあげます。 （TEL2 ポートの設定開始）	ツー
11	＊ ＊ 1 2 8	プッ、プッ、プッ、プー
12	1 0 ＊ ダイヤルイン番号をダイヤル ＊ ＊	プッ、プッ、プッ
13	# ＊ #	プッ、プッ、プッ
14	受話器を置きます。 （TEL2 ポートの設定終了）	-

i・ナンバーサービス

TEL1 ポートと TEL2 ポートに接続した 2 台の電話機を、別々の電話番号で呼び分けます。

> この機能を使うためには、NTT の INS ネット 64 で、i・ナンバーサービスを契約しておくことが必要です。

以下の場合を例に説明します。
契約者回線番号または i・ナンバー 2 にかかってきたとき TEL1 ポートの電話機が、i・ナンバー1 にかかってきたとき TEL2 ポートの電話機が鳴るように設定する。

手順	ダイヤル操作	ダイヤル操作後の受話器からの音
1	TEL1 または TEL2 ポートの電話機の受話器をあげます。	ツー
2	＊ ＊ 1 2 8	プッ、プッ、プッ、プー
3	3 3 ＊ 1 ＊ ＊	プッ、プッ、プッ

手順	ダイヤル操作	ダイヤル操作後の受話器からの音
4	③ ④ ⊛ ① ⊛ ⊛ 契約者回線番号で **TEL2** ポートを呼びたいときは ③ ④ ⊛ ② ⊛ ⊛	プッ、プッ、プー
5	③ ⑤ ⊛ ② ⊛ ⊛ **i・**ナンバー **1** で **TEL1** ポートを呼びたいときは ③ ⑤ ⊛ ① ⊛ ⊛	プッ、プッ、プー
6	③ ⑥ ⊛ ① ⊛ ⊛ **i・**ナンバー **2** で **TEL2** ポートを呼びたいときは ③ ⑥ ⊛ ② ⊛ ⊛	プッ、プッ、プー
7	⊞ ⊛ ⊞	プッ、プッ、プッ
8	受話器を置きます。	-
9	**TEL1** ポートの電話機の受話器をあげます。 （**TEL1** ポートの設定開始）	ツー
10	⊛ ⊛ ① ② ⑧	プッ、プッ、プッ、プー

手順	ダイヤル操作	ダイヤル操作後の受話器からの音
11	③ ⑦ ⊛ ① ⊛ 契約者回線番号をダイヤル ⊛ ⊛	プッ、プッ、プッ
12	受話器を置きます。 （**TEL1** ポートの設定終了）	-
13	**TEL2** ポートの電話機の受話器をあげます。 （**TEL2** ポートの設定開始）	ツー
14	⊛ ⊛ ① ② ⑧	プッ、プッ、プッ、プー
15	③ ⑦ ⊛ ② ⊛ **i・**ナンバー **1** をダイヤル ⊛ ⊛	プッ、プッ、プッ
16	受話器を置きます。 （**TEL2** ポートの設定終了）	-
17	**TEL1** ポートの電話機の受話器をあげます。 （**TEL1** ポートの設定開始）	ツー
18	⊛ ⊛ ① ② ⑧	プッ、プッ、プッ、プー

手順	ダイヤル操作	ダイヤル操作後の受話器からの音
19	③ ⑦ ⊛ ③ ⊛ i・ナンバー 2 をダイヤル ⊛ ⊛	プッ、プッ、プッ
20	受話器を置きます。 （TEL1 ポートの設定終了）	-

発信電話番号表示サービス（INS ナンバー・ディスプレイ）

ナンバー・ディスプレイ対応の電話機や FAX をお使いの場合、相手の電話番号や、番号表示ができない理由を表示させることができます。

- この機能を使うためには、NTT の INS ネット 64 で、ナンバーディスプレイサービスを契約しておくことが必要です。
- 以下のような電話がかかってきた場合、相手の電話番号は表示されません。

  公衆電話からかけた相手からの電話
  電話番号の最初に「184」を付けてダイヤルした相手からの電話
  常時通知拒否契約の回線からの電話

手順	ダイヤル操作	ダイヤル操作後の受話器からの音
1	**TEL1** または **TEL2** ポートの電話機の受話器をあげます。	ツー
2	⊛ ⊛ ① ② ⑧	プッ、プッ、プッ、プー
3	① ⑦ ⊛ ① ⊛ ⊛	プッ、プッ、プッ
4	⊞ ⊛ ⊞	プッ、プッ、プッ
5	受話器を置きます。 （設定終了）	-

発信者番号通知サービス

電話をかけるときに、自分の電話番号を相手に通知するかしないかを設定できます。

- 「通常非通知（回線ごと非通知）」を契約している場合は、以下の操作で「通知をする」設定をしても通知されません。
- この機能を使うためには、**NTT** の **INS** ネット **64** で、発信者番号通知サービスの契約をしておくことが必要です。
  ただし、電話をかけるとき、電話番号の前に「**184**」または「**186**」を付ければ、契約・設定は不要です。
- 発信者番号通知の優先順位は、以下の通りです。
  高：「**184**」、「**186**」を電話番号の先頭に付ける
  低：**AirStation** の設定（「通知する」**/**「通知しない」）

手順	ダイヤル操作	ダイヤル操作後の受話器からの音
1	発信者番号通知を設定する電話機の受話器をあげます。	ツー
2	* * 1 2 8	プッ、プッ、プッ、プー
3	発信者番号通知をしない場合 1 2 * 0 * *	プッ、プッ、プッ
	発信者番号通知をする場合 1 2 * 1 * *	
4	1 0 * （登録する番号）をダイヤル * *	プッ、プッ、プッ
5	# * #	プッ、プッ、プッ
6	受話器を置きます。 (設定終了)	-